

平成二十二年度富山国際大学入学式式辞

例年に比べ雪の多かった冬が、ようやく去りまして、東黒牧の台地にも桜がほころぶ季節が参りました本日、ここにご来賓の皆様方ならびにご家族の皆様のご臨席を頂き、二百十五名の新生を迎えて、富山国際大学の入学式を挙げることは、誠に光栄であり、喜びにたえません。

平成二十年度、富山国際大学は、時代の要請に応えるべく、これまでの国際教養学部と地域学部を統合し現代社会学部とし、平成二十一年度、呉羽キャンパスに子ども育成学部を新設しました。本日、ここに現代社会学部三回生百三十九名と、子ども育成学部の第二回生七十六名をお迎えすることができましたこと、学長として誠に嬉しく、教職員一同と共に、心から歓迎いたします。

長年にわたって学業を重ね、本日入学された新生の諸君、入学おめでとうございます。また、諸君を今日まで見守り、育てて来られたご家族の皆様にも心からお祝い申し上げます。

本学は、平成二年に建学されて、今年で二十周年を迎えることができました。これも一重に地域の皆様のご支援、ご協力の賜と深く感謝しているところであります。二十周年を迎えた富山国際大学とは、どんな大学なのか、少し述べさせていただこうと思います。

本学は建学にあたり、「大きな理想、小さな大学」をモットーとして、時代の最先端を行く大学を目指して設立されております。

そして教育にあたっての基本的な考えは、「共存・共生の精神と知性を磨く教育を基本に据えて、時代の潮流に対応できる、健全にして個性豊かな人材を育成して、国際社会および地域社会の発展に寄与する」することでした。

特に、共存・共生の精神を磨くというところに大きな理想があったと思います。共存というのは、地域社会、国際社会の多くの人達と手を取り合って生きるのが21世紀を生きる私たちの使命であると考え、また、共生

というのは、特に自然との共生でして、人間は豊かな自然があってこそ、生きられるという考えです。したがって、共存・共生の精神を磨くというのは、地域社会、国際社会を深く理解して、そこに住む人達と仲良く生きようとする平和への精神と、人間と自然との関係を深く認識して、自然を大切にしようとする精神を磨くことです。

言うなれば、富山国際大学というのは、世界平和と自然保護の精神を追求し、時代の潮流に対応して、国際社会および地域社会の発展に寄与できる、豊かな知性と個性を持った人材を育成する大学ということになります。このような小さな大学でありながら、誠に大きな理想を掲げております。

さて、諸君は、本日から、これまでの教えてもらうという受け身の生徒ではなく、自ら学ぶという能動的な学生に変わらなければなりません。自ら学ぶという積極的姿勢に気持ちを切り替えていただきたいと思います。気持ちを切り替えるといっても、どうすれば良いのか分からない人がいるかも知れません。本学はアカデミック・アドバイザー制度という制度を設けて、学習や日常生活について助言、指導する教員を配置しております。高校のクラス担任の先生と同じように、疑問に思ったこと、分からないことなど、相談に乗ってくれます。なんでも相談して、自分の能力を十分に発揮できるよう、これまでの姿勢を切り替えて、「生徒」ではなく「学生」としての生活のスタートを切ってくださいを願っています。

また、大学は勉学の間であると共に、共同生活の間であり、人間のふれあいの間でもあります。情報化社会の中で、インターネットや携帯電話を通じて、知識を得たり、人と付き合うことが多くなって、直接人同士が付き合うことが少なくなっております。そのためどうしてもコミュニケーション能力に不足し、人との付き合いが下手な人が増えております。本日、入学式で、皆さんは沢山の友達に出会いました。またクラブ活動に参加すれば、大勢の先輩にも出会います。友達や先輩と大いに語り、励まし合いながら楽しい学生生活を送り、これからの四年間において、コミュニケーション能力を高め、立派な社会人として生きる能力を養って下さい。

さて、本学は、先ほど申し上げましたとおり、時代の潮流に対応できる人材を養成して、地域社会および国際社会に発展に寄与することを使命として教育を行ってきております。現代の社会は、地域と世界が直接結びつき、地域の国際化がどんどん進んでおります。この潮流に対応できる人材を養成しようとするのが、現代社会学部であります。また、現代の社会は少子高齢化が進展して、少ない子ども如何に健全なる子どもに育てるかが、重要な課題となっております。この課題に対応できる人材を養成しようとするのが、子ども育成学部であります。

これまで本学は、教養教育に重点をおいて参りましたが、現在は、実務、実学教育を重視する方向に教育理念を変えました。教養教育というのは、広い知識とすぐれた人格者を作る教育です。実務・実学教育というのは、社会に出て役立つ知識を習得してもらう教育です。大学はこの両方の教育を行う必要がありますが、どちらに重点を置くかで、教育内容が変わってきます。その重点の置き方を変えたということです。現代社会学部では、観光、環境デザイン、経営情報の三専攻を設けて、その分野の実践的な知識を習得してもらうこととなります。そして、その知識を使っていろいろな資格が取れるように指導もします。また、子ども育成学部では、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭等の資格取得でき、また社会福祉士の受験資格も取得できるカリキュラムも用意しております。

両学部とも、皆さんが実社会に出た時、役立つ実践的知識を十分修得できる教育内容になっております。この四年間勉学に励み、その成果をもとに輝かしい人生を切り開いて下さることを願って止みません。

最後に、皆さんは、東黒牧キャンパスと呉羽キャンパスに分かれて勉強することになりますが、富山国際大学の学生として、誇りを持って、明るく活気ある学生生活を送り、健全にして個性豊かな人間に成長されることを願って、私の式辞とします。

平成二十二年 四月 六日

富山国際大学 学長 田中 忠治